実践報告

看図アプローチで文法のオンライン交流学習
―きゅうちゃんで特別支援学級と通常学級をつなぐ―

田中　岬 [1)]・大澤晴江 [2)]・石田ゆき [3)]

TANAKA Misaki　OHSAWA Harue　ISHIDA Yuki

キーワード：看図アプローチ・きゅうちゃん・特別支援学級と通常学級との交流・文法学習

概　要

本報告は，低学年国語文法の授業を，特別支援学級と通常学級との交流学習で行った実践報告である。特別支援学級は現在第 1 筆者が担当しているクラス，通常学級は現在第 2 筆者が担当しているクラスである。この通常学級は，第 1 筆者が前任校で担当した子どもたちが在籍するクラスである。ともに看図アプローチ促進ツールである「きゅうちゃん」の絵図を用いた学習経験のある子どもたちである。これまで「きゅうちゃん」を用いて，説明文やお話づくり，行事や将来の自分像についての作文を書く指導をしたところ，どちらの学級でも楽しく意欲的で協同的な学習活動となった。そこで今回は，看図アプローチを活用した文法学習を，2 つの学級のオンラインによる交流学習という形で実施した。文法項目は「主語・述語」である。なじみのある「きゅうちゃん」絵図から簡単な文を作ってもらい，文の成分としての主語・述語の関係に気付かせたいと考えた。子どもたちには交流学習をする中で，相手校の子どもたちの発表を聞き合いながら，主語・述語にはどんな言葉（品詞）が使われるのかをお互いの作った文から考えて答えを導いてもらう。コロナ禍で閉ざされた環境にある子どもたちに，オンラインで交流させることにより，学習の広がりや深まりを期待した。最終的には，文を組み立てる主語・述語の関係には 4 つの型があるというところまで習得することができた。

Ⅰ．通常学級と特別支援学級をオンライン交流学習で結んだ経緯

第 1 筆者は，現在，特別支援学級で情緒面に障害を持つ子どもたち 3 名と学校生活を送っている。特別支援学級には，自立活動という独特の活動がある。それは障害によって日常生活に困難をきたす状態を少しでも改善し，子どもたちがのびのびと楽しく学校生活や日常生活が送れるように行うものである。第 1 筆者は特に人間形成・コミュニケーション力の向上のために，自立活動にきゅうちゃんを活用してみた（田中 2023a）。例えば，次のような活動である。きゅうちゃん絵図を配したワークシートに，そこにあるものや，きゅうちゃんの様子や表情を言葉にして書き表してもらう。さらに，きゅうちゃんの絵にふきだしをつけ，セリフを想像して書くという活動である。すると，子どもたちは情報を共有し合いながらたくさんの言葉を紡ぎ始めた。このような様子を見て第 1 筆者は，きゅうちゃんを活用した学習が言語の受容と表出・他者の意図や感情の理解に有用であると考えた。そして，自立活動と並行して国語科での作文（田中 2023b）や，かるたづくり

1) 岩見沢市立第一小学校
2) 岩見沢市立メープル小学校
3) 日本医療大学

（田中 2023c）など「きゅうちゃん」とともに様々な学習活動を展開してきた。

また，第 1 筆者は通常学級の子どもたちとも「きゅうちゃん」を活用した説明文読解（田中 2022）や作文学習（田中・石田 2022）に取り組んだことがある。「きゅうちゃん」絵図を見て子どもたちの作文量は飛躍的に伸び，話し合いの場面でも非常に活発な意見交流が見られた。

折しも，時はコロナ禍にあり，学校生活も非常に閉ざされた環境にあった。そこで，ともに「きゅうちゃん」を学習促進ツールとして活用した経験のある両校の子どもたちがオンライン形式で交流学習をすることで学習や生活に広がりや深まり，潤いが期待できるのではないかと考えるに至った。

Ⅱ．オンライン交流学習の指導計画

Ⅱ－1　対象児童・授業者・実践時期など

◇対 象 児 童：特別支援（情緒）学級
在籍児童 2 年生 3 名
小規模特認校通常学級（複式）
在籍児童 2 年生 4 名・1 年生 1 名

◇授　業　者：T1（第 1 筆者　田中　岬）
T2（第 2 筆者　大澤晴江）

◇実 践 時 期：2 月中旬

◇倫理的配慮：本論文で紹介する実践データ，作文，ワークシートなどを掲載するにあたっては，保護者からの掲載許可の同意書をもらっている。（特別支援学級 2022 年 12 月 22 日・小規模特認校通常学級 2023 年 3 月 6 日）

Ⅱ－2　単元・目標・授業計画

◇単元名：主語・述語

◇指導目標

◎文の成分として主語･述語があることを知る。

◎その働きを理解して適切な係り受けの関係に気づく。

◎言葉を通じて積極的に他校の友達と関わりながら，主語述語の関係に気を付けて簡単な文を作る。

授業の略案を表 1 に示す。なお，略案中の「導入，つかむ，考える，広げる」の 5 段階のうち，最終段階にある≪次の一手≫という言葉は，その日の 1 時間の学習を終えての発展的思考や次時の予告を含めたチャレンジ問題への導入の意味で使っている。

表 1　指導計画（略案）

1 時間目

2　　年	
単元名：　主語とじゅつ語　1/3	
目標：　文の成分として主語・述語があることを知りその働きを理解して適切な係り受けの関係に気付くことができる。	
段階	児童の活動と教師の支援
10導分入	簡単な自己紹介をして交流学習の気持ちの準備をする。（10 分）
つかむ8分	○ワークシート（一）を配付する。課題をノートに書く。（2 分） 〈板書〉かだい　きゅうちゃんの絵をつかってどんな学習をするのか見通しをもとう。 ○絵図を見て絵にあるものやことを言葉にして（変換）発表する。自由発言（全体思考） ○〈発問〉「ワークシート（一）①の絵にあったらいいものは何ですか。」 自由発言したのちワークシート（一）①②に考えを記述する。（6 分）

考える10分	○絵図からわかること，きゅうちゃんのしていることなどを自由に発言。 （全体思考 3 分） ○皆で考えたことから，絵図を読み解き，文にしてきゅうちゃん（人）が何をしているのか，どんな様子かどんな気持ちか書く。ワークシート（一）③（個人思考 6 分） ○書いた文を写真に撮って交流の準備をする。ロイロノート提出箱の準備（1 分）
まとめる12分	○それぞれの考えを発表し，質問をし合う。（ロイロノートで共有）（10 分） ○どの文も「～は（が・も）～です/～する。」のような形になっていることに気づく。（気づかせる）（2 分） ○〈発問〉「みんなが作った文をみて，（くっつきの言葉や，他の言葉の順番などで）気づいたことはありませんか。」 ○「～は，～している。」の「～は,」を主語，「～です。」を述語ということを確認してからまとめ。 〈板書〉まとめ　きゅうちゃんの絵をつかって文を組み立てる主語・じゅつ語について学習する。
広げる5分	≪次の一手≫（次時の予告） 〈発問〉「主語・じゅつ語にはそれぞれどんな言葉がつかわれているかな？」 〈予想される答え〉 ・主語はいろんな人（の名前）や「名前言葉」に「は・が」などがついているんじゃないか。 ・述語は「様子・気持ち言葉」（形容詞/形容動詞）や「する言葉」（動詞）などがあるんじゃないか。 ○ふりかえり

２時間目

2　　年	
単元名：　主語とじゅつ語　2/3	
目標：　文の成分として主語・述語があることを知りその働きを理解して適切な係り受けの関係に気付くことができる。	
段階	児童の活動と教師の支援
導入 5 分	前時想起（5 分） きゅうちゃんの絵からわかることを書いた。 主語述語のある文を作った。
つかむ10分	○ワークシート（二）を配付する。 ・日付・名前を書いて何をするのか予想させる。 ○昨日作った文を読む。（2 分）主語述語を確認。課題をノートに書く。（2 分） 〈板書〉かだい　主語・じゅつ語には、どんな言ばがくるのかな。 ○〈発問〉「述語にある言葉は何言葉だろう？」 「ことばのたからばこを思い出そう」のシート（言葉の種類を書いた確認シート）を配付して品詞の確認をする。 （使う言葉は「する言葉・様子気持ち言葉・名前言葉・くっつき言葉」とする）（3 分） ○昨日作った文の述語の品詞を考える。（ワークシート（二）右部分）全体思考（3 分）

考える14分	○ワークシート（二）の問題を読む。絵図を見て絵にあるものやことを言葉にして（変換）発表する。自由発言（全体思考）(2 分) 〈予想される答え〉大根・雪玉・寝っ転がってるきゅうちゃん・お祭り・綿あめ・福袋・塀…など。 ○絵図からわかること，きゅうちゃんのしていることなどを文にして自由に発言。（全体思考 4 分） 〈予想される答え〉きゅうちゃんが雪玉を投げています・福袋は重そうです…など。 ○皆で考えたことから，絵図を読み解き，文にしてきゅうちゃんが何をしているのか，どんな様子か主語・述語を入れて書く。書いたら主語・述語に線を引く。述語は何言葉か（品詞）を書く。(ワークシート（二）左部分)（個人思考 7 分） ○書いた文を写真に撮って交流の準備をする。ロイロノート提出箱の準備（1 分）
まとめる13分	○それぞれの考えを発表し合う。(ロイロノートで共有)（10 分） ○主語にくる言葉と述語にくる言葉を確認する。確認の方法は，子どもたちが書いた文の主語部分と述語部分にきている品詞を[ことばのたからばこ]のシートと照らし合わせて行う。(3 分) 〈板書〉まとめ　主語には「だれ（名前言ば）が・何（名前言ば）が」(が・は・も) じゅつ語には「ようす・気もち言ば」「する言ば」がくる。
広げる3分	≪次の一手≫（次時の予告）〈発問〉主語・じゅつ語のある文はなかま分けできるかな？ 〈予想される答え〉 ・主語はみんな「名前言葉」だけど，述語は「様子・気持ち言葉」(形容詞/形容動詞）や「する言葉」(動詞）があるから述語の種類で，分けられるんじゃないか。 ○ふりかえり

３時間目

2　　年	
単元名：　主語とじゅつ語　3/3	
目標：　文の成分として主語・述語があることを知りその働きを理解して適切な係り受けの関係に気付くことができる。	
段階	児童の活動と教師の支援
導入 5分	前時想起（5 分） きゅうちゃんの絵から主語述語のある文を作って，主語と述語にはどんな言葉がくるか勉強した。
つかむ8分	○ワークシート（三）①（前時のワークシートに子どもたちが作った文を混ぜて載せておく）を配付する。 ・日付・名前を書いて何をするのか予想させる。課題をノートに書く。(2 分) 〈板書〉かだい　主語とじゅつ語のかんけいは、どんなふうになかま分けできるかな。 ○「述語に使った言葉がヒント」と伝える。気づいたことを発表する。 自由発言（全体思考）(6 分) 〈予想される答え〉重そうです・食べます・います・きゅうちゃんです…など。

<table>
<tr><td>考える15分</td><td>○ワークシート（三）①の問題を読む。述語部分が答えになるように質問文を考え，自由に発言。
（全体思考 2 分）
〈発問〉「する言葉の文や名前言葉の文を質問するとき，なんて聞くかな。」
〈予想される答え〉
・「これは，きゅうちゃん人形です」の質問は「これは何ですか」
・「ダンスをしました」の質問は「何をしましたか」…など。
○皆で考えたことから，述語部分の質問文をワークシート（三）①に書き込む。
（個人思考 5 分）

○ワークシート（三）②を配付して問題を読む。主語部分が答えになるように質問文を考え，自由に発言。（全体思考 2 分）
〈予想される答え〉
・「きゅうちゃんが」の質問は「誰が」
・「これが」の質問は「何が」…など。
○皆で考えたことから，主語部分の質問文をワークシート（三）②に書き込む。
（個人思考 5 分）

○質問文を書いたワークシート（三）①②を写真に撮って交流の準備をする。
ロイロノート提出箱の準備（1 分）</td></tr>
<tr><td>まとめる12分</td><td>○それぞれの考えを見てなかま分けの仕方をみんなでまとめる。（ロイロノートで共有）（10 分）

○質問文を考えたときの主語にくる言葉と述語にくる言葉を確認する。確認の方法は子どもたちが書いた，述語部分を質問する文（ワークシート（三）①）に着目させ，以下のまとめにあるように 4 分類できることを導く。（2 分）

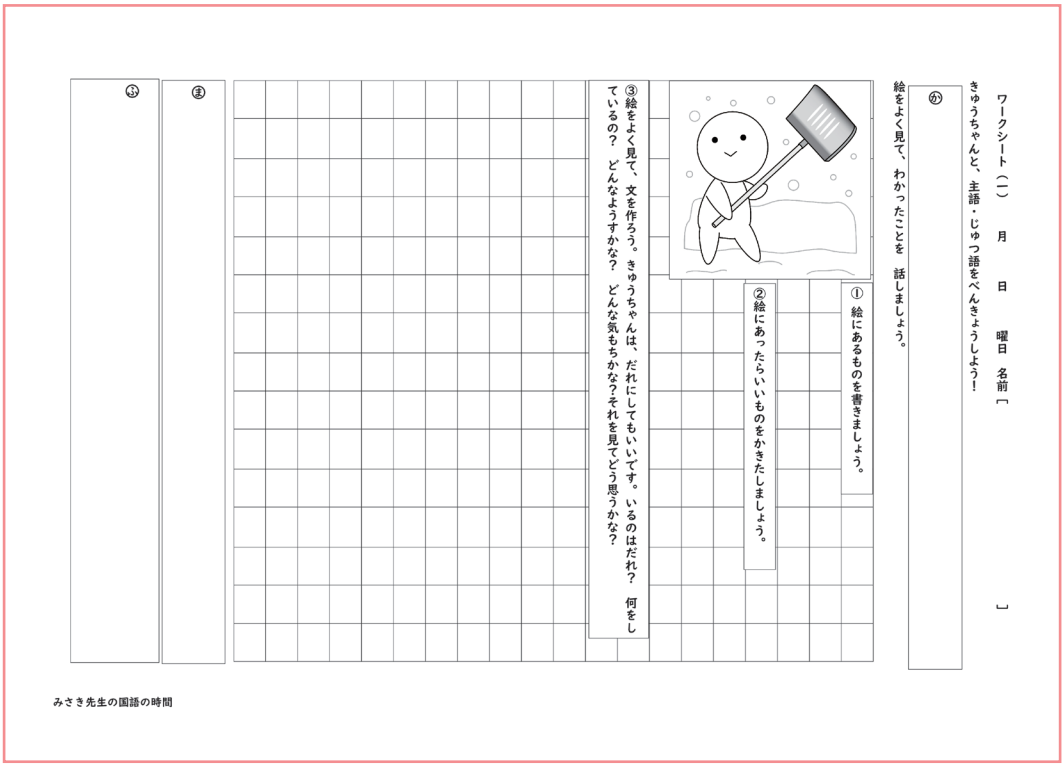
〈板書〉まとめ
主語とじゅつ語のかんけいは４つある。
だれ・何が　どうする（どうした）。　　だれ・何は　どんなだ。
だれ・何は　なんだ。　　だれ・何が　いる（ある）・いない（ない）。</td></tr>
<tr><td>広げる5分</td><td>○ふりかえり（3 時間全部のふりかえりを書く→発表）

≪次の一手≫（チャレンジ課題）
〈指示〉主語・じゅつ語の四つのタイプで、文を作ってみよう。

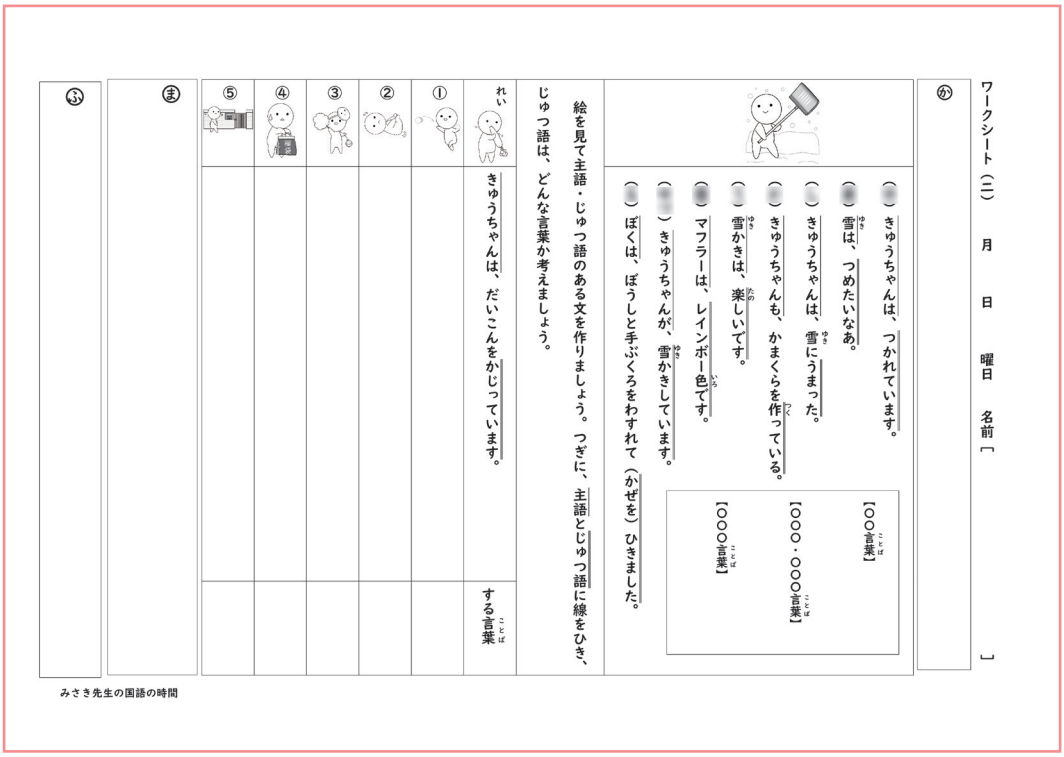
ワークシート（四）を配付</td></tr>
</table>

Ⅱ－３　教材　ワークシート (－) ～ (四) および確認シート

ワークシート (一)　１時間目使用　（㋕はかだい，㋷はまとめ，㋫はふりかえりを記入する）



ワークシート (二)　２時間目使用



確認シート　２時間目使用

「ことばのたからばこ」を思い出そう。

【する言葉】（動詞）
・わらう・なく・おこる
・立つ・すわる
・食べる・のむ
・べんきょうする・あそぶ
・入る・入れる・出る・出す

【ようす・気もち言葉】（イ形容詞　ナ形容詞）
・楽しい・うれしい・かなしい・くるしい
・おもしろい・つまらない
・赤い・白い・明るい・くらい
・親切な・元気な・ゆうめいな
・きれいな・たいくつな

【名前言葉】（名詞）
・きゅうちゃん・ぼく・わたし・先生
・ねこ・犬・子ども・おとな
・学校・家・えんぴつ・けしごむ

【くっつき言葉】（助詞）
・が・は・も
・へ・に・を
・と・から・まで

ワークシート（三）①　月　日　曜日　名前［　　］

㋐

①昨日の絵から、みんなと先生の考えを合わせて主語・じゅつ語のある文を作りました。
右の文のじゅつ語のぶぶんがこたえになるように、しつもんの文を考えて書こう。

ア

きゅうちゃんが（ボールなげを）しています。する言葉
きゅうちゃんは　何を　していますか。

イ

これは　きゅうちゃんにんぎょうです。名前言葉（＋です）
これは、

ウ

きゅうちゃんは、まつりで（ダンスを）しました。する言葉
きゅうちゃんは、まつりで　何を　しましたか。

エ

きゅうちゃんのにもつは、おもそうです。ようす気もち言葉

オ

ぼくは、おうちのそばに　います。※います
ぼくは、おうちのそばに　いますか。

みさき先生の国語の時間

ワークシート（三）①

ワークシート (三) ②　３時間目使用

ワークシート（三）②　　名前［　　］

②右の文の主語のぶぶんがこたえになるように、しつもんの文を　考えて書こう。

ア		きゅうちゃんがボールなげをしています。
イ		これが、きゅうちゃんにんぎょうです。
ウ		きゅうちゃんは、まつりでダンスをしました。
エ		きゅうちゃんのにもつは、おもそうです。
オ		ぼくは、おうちのそばに　います。 だれが、おうちのそばに　いますか。

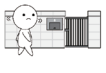
できたら、ロイロノート

みさき先生の国語の時間

ワークシート (三) まとめ　３時間目使用

ワークシート（三）まとめ

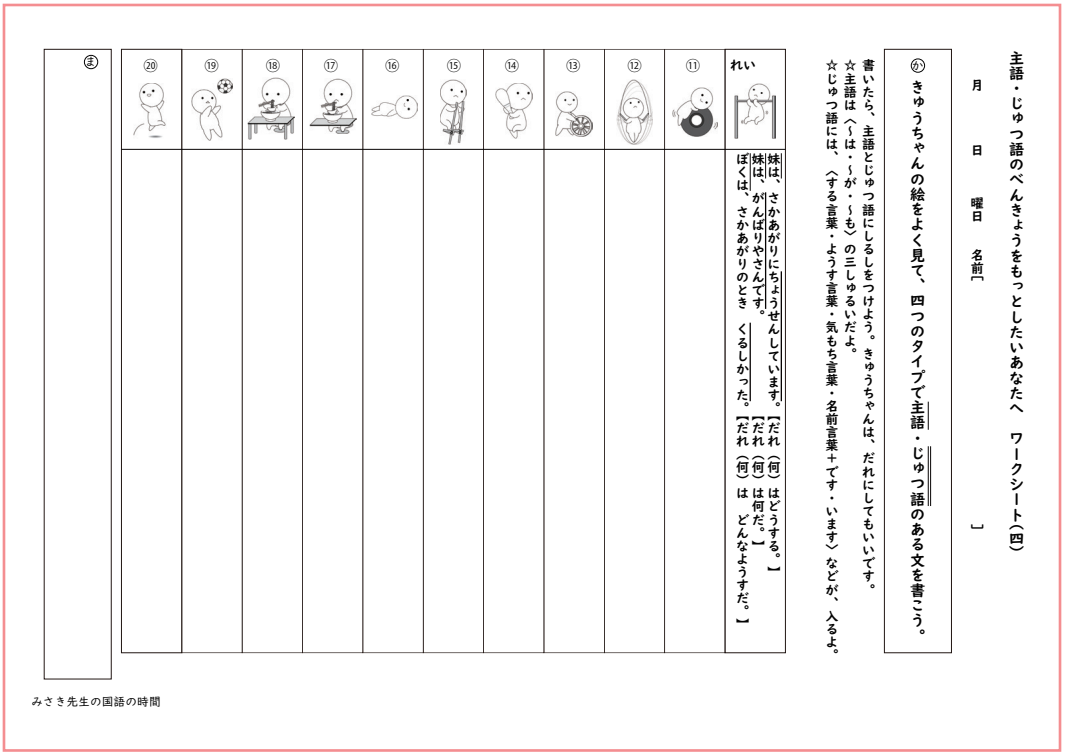
◎主語・じゅつ語のかんけいは、どんなふうになかまわけできるかな。

	きゅうちゃんがボールなげをしています。		する言葉
	だれが　ぼーるを　なげていますか。		
	きゅうちゃんは　何を　**しています**か。		
	これは、きゅうちゃんにんぎょうです。		名前言葉＋です（だ）
	どれ（何）が　きゅうちゃんにんぎょうですか。		
	これは　何ですか。		
	きゅうちゃんは、まつりでダンスをしました。		
	だれが　まつりで　ダンスをしましたか。		
	きゅうちゃんは　何を　しましたか。		
	きゅうちゃんのにもつは、おもそうです。		ようす気もち言葉
	何が　おもそうですか。		
	きゅうちゃんのにもつは　どんなようすですか。		
	ぼくは、おうちのそばに　います。	います（いる）・あります（ある）	
	だれが　おうちのそばに　いますか。		
	ぼくは　どこに　いますか。		

ま　主語じゅつ語のかんけいは、［　　］にくる言ばで［　　］になかまわけできる。

みさき先生の国語の時間

ワークシート (四)　３時間目使用



Ⅲ．オンライン交流学習授業の実際

Ⅲ－１　オンライン授業を行うにあたって

授業者（第１筆者田中と第２筆者大澤）同士の授業の打ち合わせは校務支援システムのメールで行った。第１筆者が作成した略案（表１）をもとに授業を行い，全３回の授業で子どもたちが書いたワークシートは必ずその日のうちにデータで第１筆者の手元に届くようにした。前時に作った子どもたちの文を，次時のワークシートの例文として生かすためである。子どもたちが自分たちで作った文をもとに文法の学習が進んでいくようにした。

授業の中で，子どもたちが作った文を交流するときは，それぞれのワークシートを子どもたちがipad で撮影し，ロイロノートの提出箱に提出する。特別支援学級は T1（第１筆者），通常学級は T2（第２筆者）のロイロノートに提出する。両校で，それぞれの子どもたちが書いたワークシートをテレビ画面に映し出し，全体で共有しながら発表し合う。通常学級の子どもたちのワークシートの提出先のみ T2 の iPad を使うため，その時の指示は T2 が行った。全体の授業進行は T1 が行った。

Ⅲ－２　授業の概略と教材等について

授業の進め方は上掲「指導計画」（表 1）のとおりであるが，概略をまとめておく。各時間の進め方は以下のとおりである。

【１時間目】

・テレビ画面を通して自己紹介をし合い，交流学習に向けての気持ちの準備をさせ,「きゅうちゃん」絵図を使ってどんな学習をするのか見通しを持つことを伝える。

・1 つの「きゅうちゃん」絵図を載せた「ワークシート㈠」を提示し，絵にあるもの【変換】，どんな様子で何をしているのか【要素関連づけ】など自由に発言する時間を取った。みんなの発表を聞いて，絵から「きゅうちゃん」の様子や気持ちなどを考えて【外挿】，複数の文を作ってもらう。

・全体で発表した後，どの文も「～は（が・も）～です（～ます）。」のような形になっていることに気付かせる。「～は（が･も）」の部分を「主

語」,「～です（～ます）。」の部分を「述語」ということを確認する。次時予告として，主語・述語にはどんな言葉が使われているのかを学習することを伝える。

【２時間目】

・前時に子どもたちが作った文と,「ワークシート㈡」を配付する。これには前時で使用した「ワークシート㈠」とは異なる５つの「きゅうちゃん」が提示されている。続いて，品詞（言葉）の種類を整理した「確認シート」によって言葉の種類を確認する。「～です。」の前にくるのは「様子・気持ち言葉」（形容詞・形容動詞）や「名前言葉」（名詞),「～ます。」の前にくるのは「～すること」を表す「する言葉」（動詞）であることを全体思考しながら確認した。その後，作った文の述語部分にくる言葉の分類をした。

・提示してある５つの「きゅうちゃん」絵図を見て文を作ってもらい，述語部分の言葉に線を引いて，品詞分類させる。実際には「品詞」という言葉は使わずに「様子・気持ち言葉」「する言葉」とした。さらに,主語には「誰（何）が（も・は）」という名詞がくることを確認した。品詞名は使わず「名前言葉」とした。個人思考を経て，全体交流した後，その日のまとめを行った。

【３ 時間目】

・「ワークシート㈢①」,「ワークシート㈢②」を配付し，主述の関係はどんな分類ができるのかを学習する。予め，子どもたちが作った文から数例抜粋しておき,「何（誰）がどうした。」（動詞文),「何（誰）がどんなだ。」（形容詞・形容動詞文),「何（誰）がなんだ。」「名詞＋だ・です文」「何（誰）がある・ない」（存在の有無文）の４つの型が網羅できるよう準備した。

・「ワークシート㈢①」の文を見て「述語の部分が答えになる質問文」を,「ワークシート㈢②」の文を見て「主語の部分が答えになる質問文」を考える。個人思考の後，全体交流をして，できた文を確認し合う。

・「ワークシート㈢①」,「ワークシート㈢②」の文の主語・述語にきている言葉をもとにして，主述の関係を４つになかま分けした。最終的に４つの型に分類ができることを「ワークシート㈢まとめ」でまとめた。あわせて，ふりかえりを行った。なお，授業がすべて終了した時に,「ワークシート㈣　主語・じゅつ語のべんきょうをもっとしたいあなたへ」を，自習用のワークシートとして配付した。このワークシートは授業内では扱わなかったが，通常学級の児童２名はワークシートに記入して第２筆者に提出している。

Ⅲ－３　授業の様子と授業記録

【１時間目】

両クラスともオンラインによる交流学習は初めての経験であった。画面越しに自己紹介をした子どもたちは少し緊張しているようだった。しかし，配られたワークシートにきゅうちゃんの絵図を見つけると子どもたちは「わあ，きゅうちゃんだ。」「かわいい。」「スコップ持ってる。」「雪かきしてる。」「きゅうちゃん，寒そう。」などと画面のこちらとあちらで言葉を発した。両校ともに，何の指示もないうちに子どもたちは絵図を見て次々と，変換，要素関連づけ，外挿を行っていた（図１・図２）。

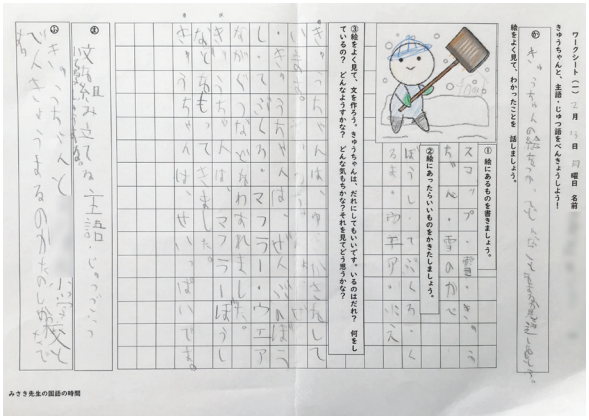


図１　特別支援学級児 C2 の書き込み例

図２　通常学級児 C5 の書き込み例

【２時間目】

２時間目ではとくに，交流学習の効果的なやり取りが見られた。その一部を紹介する。C は児童，T1 は授業者（第 1 筆者），T2 は第 2 筆者である。なお，倫理的配慮の観点から一人称はすべて「わたし」に統一している。

T1　昨日の勉強は何したか覚えてる？
C2　きゅうちゃんの絵を使って文作ったの。
C1・4・5　主語とか述語とか。
T1　そうだね。覚えていたね。今日はね，また，新しいプリント作ってきたよ。
C2　わー，なんかいっぱい書いてある。
T1　うん，実はね，先生，昨日みんなが作ってくれたきゅうちゃんの文を載せてきたよ。○○（通常学級の学校名）の人たちのは○○先生に送ってもらって，ちゃんと一緒に載せたよ。上に書いてあるのは作った人の名前だよ。ちょっと読んでもらおうかな。最初のは C8 さんのだね。
C8　きゅうちゃんはつかれています。
T1　はい，ありがとう。じゃあ，今度は C5 さんだね。お願いします。
C5　きゅうちゃんも，かまくらをつくっている。
T1　ここね，本当は C5 さん，「きゅうちゃんは」だったんだけど，「きゅうちゃんも」になってるね。先生ね，みんなの作った文を少し改造させてもらったんだよね。
（中略）
T1　今日はね，何を勉強するかと言うと・・・，みんなの文に 2 種類の線が引いてあるのがわかるかな。1 本線と 2 本線。さあ，これ，なんだろうね。
C5　誰が何をしている・・・。
T1　あっ，今，誰？ C5 さん？みんな聞こえた？
Cs　誰が，何をしている。
T1　そうだね，C5 さん，ありがとう。みんな，どう？
C6　C5 さんと同じ。
T1　同じ？ほかのみんなはどう？
Cs　同じで～す。C5 さんと同じ。（口々に）
T1　そう。今日は，誰が，何をしてるの文でね・・・，どっちが主語？述語？上にあるのが・・・，
C4・5　主語。
T1　あっ，聞こえた。主語？ C1 さんも今なんか言ったね。
C1　主語。上にあるの。「誰が」の方。
T1　うん，みんないいかな。
Cs　いい。
T1　じゃあね，今日は主語・述語の部分には，どんな言葉がくるのかなっていうことを勉強するの。じゃあそれが今日の課題だよ。課題，プリントに書いてくれる？
（テレビの画面共有）
（板書したものをロイロノートに撮り，画面共有。子どもたちはプリントの課題を書く部分に書く）
T1　みんなが作った文見てみてね。主語は，誰がってわかったから，述語の方を見てくれる？ C8 さんのつかれていますとか，C7 さんはつめたいなあとか書いてあるね。それじゃね，ここで，みんなさ，言葉の宝箱ってやったの，憶えてる？
C1 ～ 7　憶えてる～。
C8　知らない。やったことない。（1 年生なので同じ内容は未習）
T1　そうだね，C8 さんはやってないね。

（品詞の種類を書いた「確認シート」を提示）

ここで，子どもたちと，動詞を「する言葉」，形容詞・形容動詞を「様子・気持ち言葉」，名詞を「名前言葉」，助詞を「くっつき言葉」として品詞の言い方を確認した。このとき，「する言葉」（動詞）は言い切ったとき，最後がウ段で終わること，「気持ち・様子言葉」のうち，形容詞はイ段で言い切ったり次の名詞を修飾したりすること，形容動詞は名詞を修飾するときは「〜な」という形になることなども合わせて確認している。

T1　じゃあ，みんなが書いた文の述語を見てくれる？疲れている。冷たい。あれ，これは今のシートの「言葉」の中の何言葉かな。
C1　様子？
T1　そうだね。疲れているとか冷たいとか，様子を表しているから「様子・気持ち言葉」だね。
C4　「冷たい」も様子。
T1　そうだね。C4 さん。ありがとう。じゃあ，「うまった」は？
C6　様子？
C7　うまった。うまって。うま・・・
T1　うまった，うまるぅ。最後何で終わってる？

ここは，子どもたちからなかなか意見が出てこなかった。そのため教師の方で誘導して，「人がやること，動作だよ」と伝えて「する言葉」であることを確認した。

T1　じゃあ，次の「かまくらを作った」の「作った」は何だろう。
C5　うーん。かまくら。
C4　作った。作るぅ。
C2　何？やること。やる。
T1　そうだね。人がやること，することだね。
C1・2・4・5　「する言葉」。
T1　そうだね。揃ったね。「作った」は「する言葉」だね。じゃあ，「楽しい」は？
C4　気持ち。
T1　そうだね。「気持ち言葉」だね。じゃあ「レインボー色のレインボー色」はどうかな。
C5　名前。
C4　名前。
C3　名前？
T1　そうだね。「名前言葉」だね。虹っていう名前だもんね。
T1　じゃあ「雪かきしています」。
C2・4・5　「する言葉」。
C1　雪かきしてるのきゅうちゃんだもん。「する言葉」。
T1　そうだね，みんな「する言葉」だね。じゃあ最後「風邪をひく」。
C3　「気持ち言葉」。
C6　「様子言葉」。
C5　「する言葉」。
T1　さあ，どうでしょう，分かれています。
C4　ひくぅだから，「する言葉」じゃない？
C1・2・6　あっ，本当だ。「する言葉だ」。
T1　そうだね，難しかったけどこれは風邪をひくっていうその人がなったってこと。C4 さん，いいね。ウ段で終わってるの確かめたのね。うん，これは「する言葉」ね。○○（通常学級の学校名）のみんなも言ってくれたね。それじゃあ，今日のワークシートに行こう。みんな「ワークシート㈡」を出してね。
Cs　わあ〜。
C4　いろんなきゅうちゃんいる。
C2　かっわいい〜。
T1　どんなきゅうちゃんいる？
C5　寝っ転がってる。
C4　…。
T1　C4 さんなんて言ったの？
C4　体操しているきゅうちゃん。
T1　あ〜，体操ね，体操してるきゅうちゃん。はい。C7 さん，なんか言ったね。
C7　家に帰ってるきゅうちゃんいる。
T1　あぁ，はい。家に帰ってるきゅうちゃん

ねぇ。
C3　おまつりきゅうちゃん。
T1　おっ。おまつりねえ。
C4　福袋持ってる。
C2　お菓子持ってる。
T1　あ，今 C2 さんから「お菓子持ってる」って聞こえたんだけど，よく見たら漢字で「福袋」って書いてあるんだ。
C2　福袋？
C4　あのね，お正月とかに買うの。何入ってるかわからないの。いいもの入ってるの。
T1　あ～，C4 さんよく知ってるね，ありがとう。C2 さんわかった？今，C4 さんが言ってくれたこと。
C2　うん。福袋って言うのか。
T1　いいね，テレビの向こうから，知らなかったこと教えてもらえたね。
C6　ボール遊びきゅうちゃんもいる。
C8　重い荷物持ってる。
T1　C8 さん，いいねえ，きゅうちゃんの荷物重そうなんだね。みんな見て。
C1　重たそう。
C3　きゅうちゃんかわいそう。
T1　いいね，たくさんのことが出たね。じゃあ，今度は今，みんなから出た言葉を合わせて，使って，文を書いてもらうよ。文が書けたら，述語に線を引いてください。2 本線だよ。書いたら「する言葉」とかも書いてください。
C4　まだこの勉強やりたい。
C5　やりたいね。明日もあるよ。
C4　そうだね。
C7　これ，何言葉かな。「している」
C6　「る」だから，・・・。
C7　「する言葉」だ。
T1　すごいね，ちゃんと調べて確認してやってるねぇ。
C4　できた。
C7　「る」だから「する言葉」。
T1　大丈夫？
C3　これ「する言葉」？
C1　「る」だから「する言葉」でいいよ，C3。
（予定時間がきてアラームが鳴る）
T1　（できたら，写真を撮ってロイロノートで送るよう指示）（図３・図４）

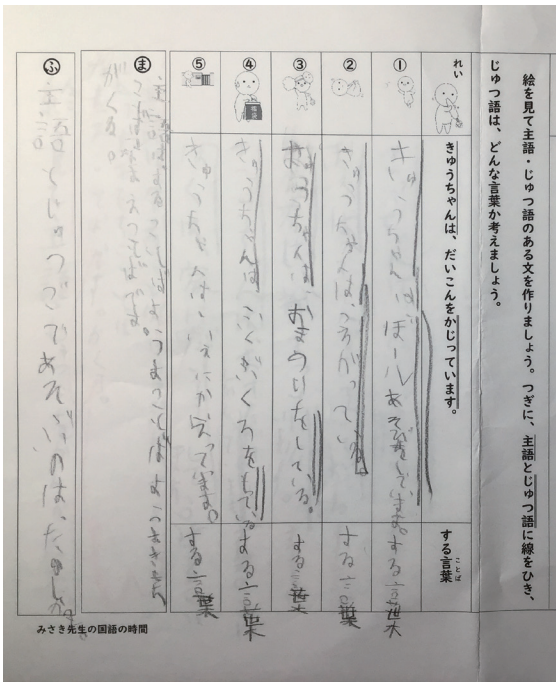


図３　特別支援学級児 C2 の書き込み例

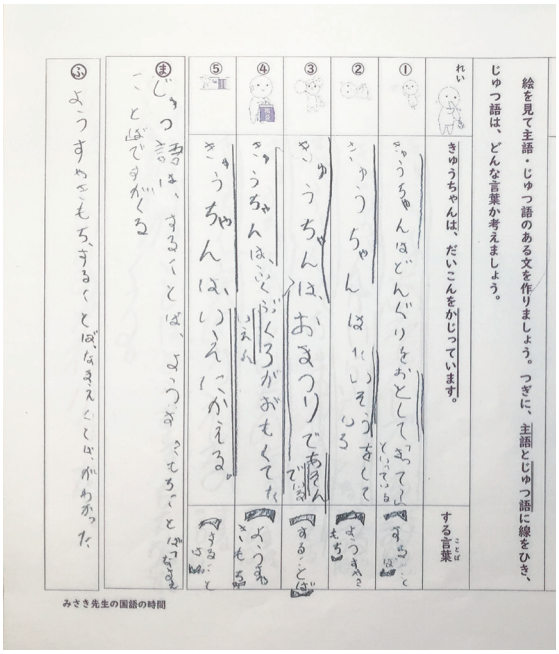


図４　通常学級児 C5 の書き込み例

（共有準備完了）
T1　C1 さん 1 つだけ文を選んで読んでください。
C1　みんなはお祭りに行っています。
T1　ほ～。では，述語は何で何言葉？
C1　「お祭りに行っています」の「行っています」で，「する言葉」。
T1　はい，ありがとう。「する言葉」だね。じゃ今度は C2 さん。
C2　きゅうちゃんは福袋を持っています。
T1　はい，述語は何で何言葉ですか。
C2　「持っています」に線をつけて，「する言葉」。
T1　はい，じゃ次は C3 さんどうぞ。1 つ選んでね。
C3　きゅうちゃんはくじをやっています。・・・。
（述語，「何言葉」が答えられずにいる）
T1　じゃあみんな，助けてね。C3 さんの述語は何かな。
C4　「やっています」。
T1　ありがとう。C4 さん。テレビの向こうから助けてくれたね。じゃあ，C3 さん「やっています」は何言葉って書いたの？
C3　「する言葉」？
T1　いいよ。いいね。こっちはみんな「する言葉」でした。では，こちらを切ります。そちらに切り替えます。
（画面共有）
T2　では日直の C8 さんからどうぞ。
C8　はい。きゅうちゃんは，お家に帰っています。
T2　はい。「きゅうちゃんはお家に帰っています」の述語は何ですか。
C8　「する言葉」。
T2　はい，「する言葉」ね。述語はどれですか。
C8　お家に帰っています。
T2　じゃあ C7 さんどうぞ。
C7　きゅうちゃんは手袋を持っています。
T2　述語は？
C7　「持っています」で「する言葉」。
T2　じゃあ C5 さん。
C5　きゅうちゃんはどんぐりを落として，待って～と言っている。
T2　述語は？
C5　「どんぐりを落として」，落としての「する言葉」。
T2　はいじゃあ　C6 さんどうぞ。
C6　きゅうちゃんはいらいらしている。
T2　述語は？
C6　いらいらしている。「する言葉」。
T2　C4 さんどうぞ。
C4　「する言葉」。
T1　発表は「する言葉」が多かったけど，書いてくれた中には様子言葉と，名前言葉もありました。それ紹介するね。
（画面共有）
T1　C3 さんの，この人は家に帰る○○（C3 の名前）です。○○は名前言葉だよね。今日は，述語にどんな言葉がくるかをやったんだけどね，みんなの発表してくれたのは，「する言葉」が多かったけど，様子言葉や C3 さんの名前言葉もあるよ。それでまとめ書くよ。
（まとめを板書してロイロノートで共有）

【３時間目】

３時間目はまず「ワークシート㈢①」，続いて「ワークシート㈢②」を使い，主語述語の部分にはどんな言葉がくるのかを確認した。「ワークシート㈢①」「ワークシート㈢②」には，前時に子どもたちが作った文を抜粋して提示した。「ワークシート㈢①」には述語の部分が答えとなるような質問文，「ワークシート㈢②」には主語の部分が答えとなるような質問文を書くという指示を出した。子どもたちの解答は，画面共有しながら確認し合った。述語の部分が答えとなるような質問文は，全員一致して正答であった（「ワークシート㈢①」）。しかし，主語の部分が答えとなるような質問文は，エの設問のみ，期待する正答ではないものと無回答があった。以下に解答例を紹介する。

「ワークシート㈢②」設問

次の（実際のワークシート上は「右の」）文の主語のぶぶんがこたえになるように，しつもんの文を考えて書こう。
エ　きゅうちゃんのにもつは，おもそうです。
（厳密には連文節となり主部であるが未習事項のため主語として提示）

「ワークシート㈢②」解答

〔正答としたもの〕
　だれのにもつがおもそうですか。（５人）
〔正答ではないもの〕
　だれがおもいにもつをもっていますか。（２人）

正答ではなかった１人は特別支援学級児，１人は通常学級児である。無回答は通常学級児である。正答ではないものの質問文の答えは「きゅうちゃんです。」となり，元の文エと変わってしまうため誤答である。しかし，文意として「きゅうちゃんの荷物は重そうです。→きゅうちゃんは重い（重そうな）荷物を持っている。」と解釈して答えたであろう２人には，「間違い」と断言しなかった。代替案として，正答とした「だれのにもつがおもそうですか。」の他，「何がおもそうですか。」とするのが，答えの文（エ）に対する正しい質問文であると説明した。

実際の記入例として，前出と同じ C2・C5 の「ワークシート㈢①」「ワークシート㈢②」を図５～８に示しておく。

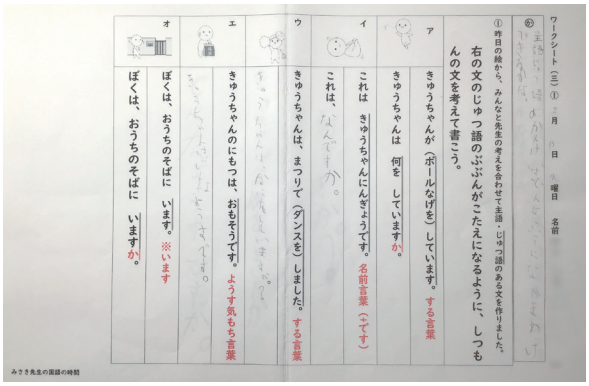


図５　特別支援学級児 C2 の「ワークシート㈢①」書き込み例

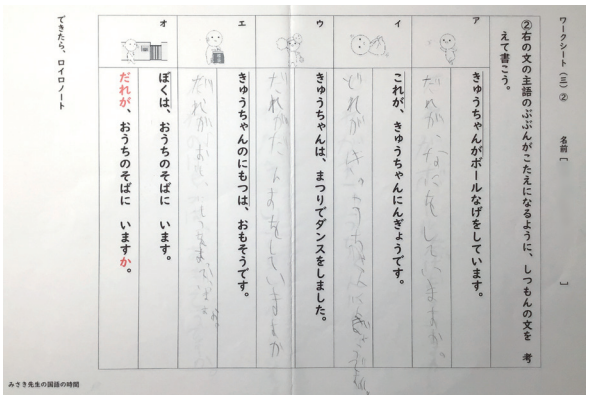


図６　特別支援学級児 C2 の「ワークシート㈢②」書き込み例

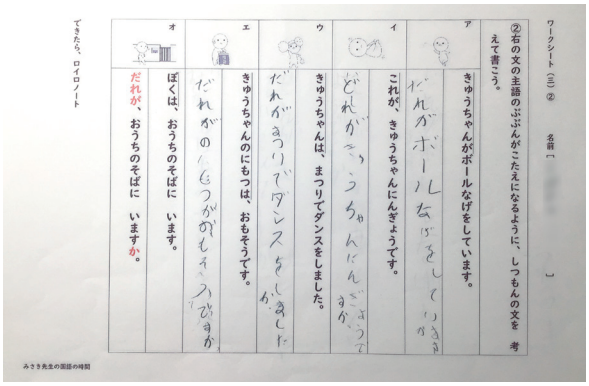


図７　通常学級児 C5 の「ワークシート㈢①」書き込み例

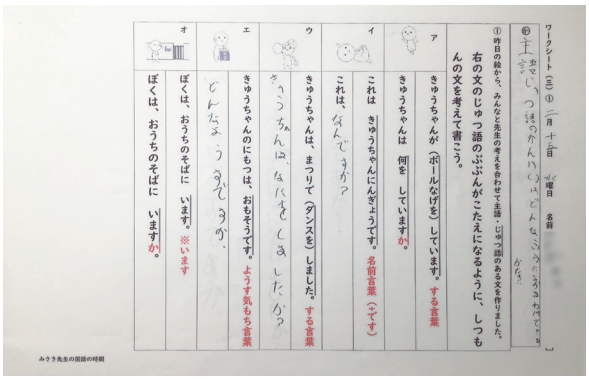


図８　通常学級児 C5 の「ワークシート㈢②」書き込み例

「ワークシート㈢①」の解答交流から，述語になる部分の質問文は「～は，何をしていますか。」「～は，どんなようすですか。」「～は，何ですか。」「～は，います（あります）か。」となることを確認した。また，「ワークシート㈢②」の解答交流から，主語の部分が答えとなる質問文は「だれが～です（ます）か。」「何が～です（ます）か。」となることを確認した。これらを合わせて，主語述語の関係は述語にくる言葉によって４つになかま分けできるということをまとめた。４つの型は以下のとおりである。

・だれ（何）が（は・も）何をする（どうする）。〈動詞文〉
・だれ（何）が（は・も）どんな様子だ。〈形容詞文〉
・だれ（何）が（は・も）何だ。〈名詞＋だ・です文〉
・だれ（何）が（は・も）いる（ある）。〈存在文〉

筆者らの勤務校（市）で採用している２年生国語教科書では，上掲４番目の存在文は取り上げていない。しかし，授業の中で，きゅうちゃん絵図から子どもたちが導き出しているので，本授業では４つ目の型として提示した。

以下に子どもたちのふりかえりを紹介する。C1 ～ C3 は特別支援学級児，C4 ～ C8 は通常学級児である。

C1 のふりかえり

はじめて○○小学校の人とべんきょうして，しゅ語じゅつ語のことをして，よかったし，たのしかったです。しゅ語の，だれが，だれの，のことを考えた。べん強しているとき，○○（特別支援学級のクラス名）は３人だけど○○（交流した相手校通常学級の学校名）は５人もいて，びっくりしました。

きゅうちゃんとべん強して，マラソンのことや学げい会の作文のこと，しゅごじゅつ語のべん強をしてたのしかったです。みさき先生がいなかったら，きゅうちゃんのべん強ができなかったから，みさき先生がいてよかったです。こんどまた○○小学校といっしょにべん強したいです。

C2 のふりかえり

主語じゅつ語で，きゅうちゃんと○○小学校とみんなで，ぜんぶの主語じゅつごを学んだのがたのしかった。べんきょうで思ってたのが，「はじめてのときは，いっぱいべんきょうしたいな。もっと，べんきょうしよう。でも，３日だしな。もっといっしょにやりたいな。がんばってやりたいな。うれしかったな。」と思いました。

きゅうちゃんは，べんきょうがすきだと思うから，いつも，べんきょうにでてきているから，うれしいと思います。どうしてかというと，きゅうちゃんは，いつも○○（特別支援学級のクラス名）のべんきょうにでているからうれしいです。

C3 のふりかえり

８人でべんきょうしたのがたのしかった。たのしかったです。きゅうちゃんとべんきょうするのがたのしかった。きゅうちゃんがかわいいから。きゅうちゃんがいるときのほうが，文が書けるから。

C4 のふりかえり

わかったことは，主語がさいしょにつくことばで，じゅつごは，さいごにつくことばだとわかった。

べんきょうしているときとかは，いろいろないけんがでたりして，いまのきもちは，とてもよくまなんだことがわかった。

きゅうちゃんの絵のかわりでいっているいみがものすごく，りかいしやすかったし，きゅうちゃんのようすもよくわかったからよかったです。またやりたいです。

C5 のふりかえり

主語じゅつ語の文や，主語はだれが，なにをしているの言葉【する言葉】【ようす・気もち言葉】【名前言葉】【くっつき言葉】がわかった。

あと，何する，どんな様子だ，何だ，だれ，のことばもわかったからよかった。

> きゅうちゃんがあってよかった。なまえがおぼえられてよかった。こんど，○○小学校にきてください。

C6 のふりかえり

> きゅうちゃんとかで文を書いたり考えたりするのも，書くのもたのしかったし，できるようになったり三日間できてうれしかった。
> 身ぶりであらわしてるきゅうちゃんが，あらわしているのをあてることができた。

C7 のふりかえり

> しゅご，じゅつごのいみがわかりました。たくさん文を，かけました。
> じゅつごのなかまわけがむずかしかったです。
> ちょっとだけ，ともだちのなまえを，おぼえられました。
> こんど，○○（小学校）にきてください。

C8 のふりかえり

> しゅごじゅつごのいみがわかった。
> ○○小学校の２年生とのべんきょうがたのしかった。
> きゅうちゃんのえがあった文がかきやすかった。
> ぼくはあるく。
> 文をつくりました。

Ⅳ．オンラインによる文法の交流学習に看図アプローチを活用した成果

「きゅうちゃん」を介することで，初対面であるにも関わらず，通常学級児・特別支援学級児ともに子どもたちはスムーズに学習に取り組むことができた。「きゅうちゃん」には，子どもたちに安心感をもたらす力があり，強力な協同学習ツールとなっていたことがわかる。学習へのスムーズな導入はもちろん，画面の双方向に穏やかで温かい雰囲気ができていたことは，授業記録に見られる子ども同士の対話からもうかがい知ることができる。

「ワークシート㈡」の「きゅうちゃん」絵図を見て，どんな「きゅうちゃん」がいるか自由に発言（変換・要素関連づけ）をしているときに「福袋」についてのやりとりがある。実は，「福袋」の漢字は本授業を行った時点では未習であった。しかし，通常学級児の 1 人が「福袋をもっている」と発言し，ほぼ同時に特別支援学級児が「お菓子を持っている」と発言した場面があった。そこで，教師が「福袋」と書いてあることを伝えた。このあとの対話に着目したい。特別支援学級児が「福袋？」と，疑問を投げかけている。その言葉を拾って，画面の向こうから相手校の通常学級児が福袋について説明をするのである。するとその説明を聞いた特別支援学級児は「福袋って言うのか」と納得し，次の課題（主語述語のある文を作り述語部分に二重線を引く）では「きゅうちゃんは福袋をもっています」と発言している。この児童にとって，つい先ほどまで「福袋」という言葉の意味や読み方，存在は未知事項であった。しかし，通常学級児との交流により既知事項となった「福袋」という言葉を，自分の文中の言葉として自然に取り入れている。

また，同じ課題遂行中の別の特別支援学級児が，自分の作った文の述語は何かと教師に聞かれ答えに窮しているとき，画面の向こうから助けられている場面もある。

第 1 筆者のこれまでの経験では，文法授業と言えば教師主導が多かったが，看図アプローチによる本実践ではこのように，子どもたちの協同作業で，授業がどんどん進んでいった。毎時間のワークシートに書いた子どもたち自身の例文をもとに考え，交流し合いながら文を作り，知識を習得していった。

３時間にわたるこの文法交流学習は，「きゅうちゃん」に助けられながら，積みあがっていった。協同学習促進ツール「きゅうちゃん」は，子どもたちだけでなく文法学習を計画した教師にとっても良きファシリテーターとなっていた。

さらに，児童のふりかえりには，「一緒に勉強したのが楽しかった」「きゅうちゃんと勉強する

のが楽しかった」「また，やりたい」「いっぱい勉強したい」「もっとやりたい」などの情意面でのメリットと合わせて，「いろいろな意見が出てよく学んだ」「きゅうちゃんがいたからたくさん文が書けた」「きゅうちゃんがいるときの方が文が書ける」「きゅうちゃんの絵があってわかりやすい」「きゅうちゃんの絵を見ながらやると文が進む」「きゅうちゃんの絵で言っている意味がわかりやすい，理解しやすかった」「主語が最初につく言葉で，述語は，最後につく言葉だとわかった」「主語述語の言葉がわかった」などの認知面でのメリットも多く綴られていた。

現行の学習指導要領解説国語編（文部科学省 2018b）によれば，第１・２学年の知識及び技能の内容には以下の表記がある。

〔知識及び技能〕
（1）言葉の特徴や使い方に関する事項
○「文や文章」
カ　文の中における主語と述語の関係に気付くこと。

話や文章に含まれる文の中で主語と述語が関係していることに気付かせることを示している。

書き言葉としての文章だけでなく，話し言葉としての話の中に含まれる文においても主語と述語との関係に気付かせることが大切である。主語と述語との関係とは主語と述語の適切な係り受けのことである。例えば，「昨日，私は，母がおやつにクッキーを焼いてくれました。」のように「私は」に対する述語が示されされないといったことがないように，主語と述語を適切に対応させることが必要である。表現するときだけでなく，文章を読むときにも主語と述語の適切な係り受けについて意識できるようにすることが大切である。

また，主語と述語が適切な係り受けの関係になっていることが，伝えたいことを相手に正確に伝える上で重要であることに気付くようにすることが大切である。

上記の「文の中における主語と述語の関係に気付くこと」「適切な係り受けについて意識できるようにすること」という点においては，本授業３時間をとおして，子どもたちがそれぞれ文を作り，学習を積み重ねたまとめとして，述語にくる品詞（言葉）によって文を４つの型に分類したことで充分に網羅された。また，子どもたちの認知面でのふりかえりからも実現できたといえる。

そしてまた，特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（文部科学省 2018d）によれば，教育課程の編成及び実施の章に，学習の基盤となる言語能力を構成する資質・能力として以下の記述がある。

（知識・技能）

言葉の働きや役割に関する理解，言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け，言葉の使い方に関する理解と使い分け，既有知識（教科に関する知識，一般常識，社会的規範等）に関する理解が挙げられる。

特に「言葉の働きや役割に関する理解」は，自分が用いる言葉に対するメタ認知に関わることであり，言語能力を向上する上で重要な要素である。

特別支援学級と通常学級とを結んだ交流学習は，この「言語能力」の向上に有益な結果をもたらしたと筆者らは考える。さらに，「きゅうちゃん」の存在によって，特別支援学級・通常学級のどちらの子どもにも協同による有意義な学びの場がつくられたと言える。

Ⅴ．おわりに－今後の課題

第１筆者が以前に勤務した中学校・高校での国語の授業では多くの生徒から，文法が苦手もしくは嫌いだという声を聞いた。しかし，それは国語，日本語が母語でありながら，品詞の種類や，用言（動詞・形容詞・形容動詞）の活用など規則的なルールの習得に終始していたからなのではないかと考える。本実践で，どの子どもたちも楽しく学ぶ姿が見られたことから，小学校高学年・中

学校・高校でも，看図アプローチによる協同的で楽しい文法授業が行えるのではないかと考えるに至った。

第２筆者大澤は，授業後の感想を次のように述べている。

大澤のふりかえり

〇〇小学校とオンラインでつないだ国語の交流学習を行い，〇〇小学校〇〇学級２年生３名と〇〇小学校１・２年生５名の児童が一緒に学びました。〇〇小の２年生にとっては，１年生の時の担任の先生である田中岬先生との授業を楽しみにしていて，授業当日も画面越しの田中岬先生との再会を喜びながら授業を受けていました。

今回の授業である「主語と述語」を通して，効果的な点がいくつかあります。

まず，少人数の〇〇小の子ども達にとって，いつもと違う同学年の児童と考えを交流することができたことです。自分で考えた主語と述語の文を，友だちが作った文と相違点を考えながら交流できました。自分が考えつかなかった文もあり，学びの幅を広げることができました。

次に，「きゅうちゃん」の絵から文を考えたことで，より子ども達が意欲的に文作りに取り組んでいたことです。特に２年生にとっては，昨年度も国語で「きゅうちゃん」を使った学習に取り組んでいた経験があり，文を書くことが苦手な子どもも，絵と結びつけながら意欲的に文を作っていました。多様な文を考えたことが，文を組み立てる主語と述語の関係の４つの型を学ぶ最終時の学習につながっていました。

主たる授業者の田中岬先生の教材研究により，「主語と述語」という，文を読み書きするうえで基礎となる大切な学習を，３時間の単元計画で丁寧に学ぶことができました。何度教えてもそのたびに頭を悩ませてきた文法学習も子どもたちに定着させることができたと感じています。

オンラインでつなぐことで，交流授業のハードルが低くなりました。また機会がありましたら，一緒に授業をさせていただきたいです。

過去に，文法の単元ではないが，初任教員とベテラン教員が中学校異学年クラスで同時に行った看図作文指導の実践（茅野・時田 2021）がある。茅野によれば，看図作文の授業を初めて行う初任教員でも充実した看図アプローチ・看図作文指導ができることが示されている。

第２筆者大澤は，本実践で初めて看図アプローチによる授業を体験した。大澤は，長年培った指導方法や教育観を持った経験年数の長い教員である。その大澤が，「何度教えても文法授業はそのたびに頭を悩ませていた。『きゅうちゃん』の絵から文を考えたことで，子ども達がより意欲的に文作りに取り組んでいた。文を書くことが苦手な子どもも，絵と結びつけながら意欲的に文を作っていた。文の読み書きの基礎となる『主語と述語』の学習を丁寧に学べた。教師としては文法学習を定着させられたと感じている。」とふりかえっていることからも，文法授業への看図アプローチ活用は今後大きな期待が持てると確信した。

子どもたちにとって文法は難しく苦手な単元であり，教師主導型にならざるを得ないのではないかという既成概念を払拭する文法授業の開発が今後の課題である。協同学習促進ツール「きゅうちゃん」を活用し，子どもたちが自分で作る文をもとに文法に気付き，習得していけるような授業を今後もつくり続けていきたい。

引用・参考文献

石田ゆき　2022 「きゅうちゃんの歴史（Ⅰ）－誕生編－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』16 号　pp.29-37

石田ゆき　2023 「きゅうちゃんの歴史（Ⅱ）－とっても大事な『ちょこっと使い』編－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』17 号　pp.31-44

茅野徑子・時田優奈　2021 「いつでも，どこでも，だれでも，だれとでもできる看図作文指導

－『きゅうちゃん，たぶんこうだったんじゃないか劇場』－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』6 号　pp.3-15
鹿内信善　2003 『やる気を引き出す看図作文の授業』 春風社
鹿内信善　2015 『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方』 ナカニシヤ出版
田中　岬　2022 「1 年生がスムーズに説明文が書けることを目指して－みぶりが伝える内容を文章化するための看図アプローチ－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』14 号　pp. 3-21
田中 岬・石田ゆき　2022 「『看図語りカフェ』を活用した 1 年生の自分作文－過去現在未来の自分に似たきゅうちゃんで思いを綴る－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』16 号　pp. 3-28
田中　岬　2023a 「特別支援学級における看図アプローチの活用－自立活動と国語科でのお話づくり－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』17 号 pp. 3-21
田中　岬　2023b 「特別支援学級における行事作文指導－看図アプローチで思い出す－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』18 号　pp. 3-34
田中　岬　2023c 「きゅうちゃんでかるたづくり－看図アプローチによる特別支援学級での教科等横断的学習－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』 19 号　pp. 11-34
田近洵一・北原保雄他　2020 『ひろがることば 小学国語　二下』 教育出版
宮崎英憲･山本昌邦　2011 『特別支援教育総論』 財団法人放送大学教育振興会
吉田昌義・鳥居深雪　2011 『特別支援教育基礎論』 財団法人放送大学教育振興会
文部科学省　2018a 『小学校学習指導要領』 東洋館出版社
文部科学省　2018b 『小学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社
文部科学省　2018c 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 幼稚部・小学部・中学部』 開隆堂
文部科学省　2018d 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編　幼稚部・小学部・中学部』 開隆堂

注　本研究の一部は日本協同教育学会第 19 回大会で発表した。

謝　辞

オンラインによる交流学習実施にあたっては，両校の校長先生には快く許可をいただきました。本実践を行った当時の岩見沢市立第一小学校の石原校長先生，岩見沢市立メープル小学校の尾花校長先生，ありがとうございました。また，石原校長先生と，メープル小学校柏木教頭先生（本実践時）には，ICT 機器の操作準備等，御協力いただき，たいへんお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

鹿内先生には，複数名での共著論文の書き方等，ご教授いただきました。いつもありがとうございます。

2023 年 12 月 15 日　受付
2024 年　1 月 15 日　査読終了受理